

2023 AUTOBACS SUPER GT FUJIMAKI GROUP FUJI GT 450km RACE



NISSAN REALIZE GROUP YOKOHAMA PITWORK 日産車体 Logisnext UD TRUCKS ALTA PREMIER Assist
 株式会社ゼロ 日産モータースポーツ&カスタマイズ ROCK PAINT 5YEARS COAT Premium Quick Pro Paint パーソナルクロステクノロジー Energywith TOPPAN NGK NTK MAL TOOLS
 KAMMOTO Sogoh Boshai Co., Ltd. Tataru SUNTORY pepsi Deff LSI CO. LTD. GT TERA LSI KSB SANCOR D.R.M. puma 日産東京 日産大阪 日産プリンス栃木
 埼玉日産 日産プリンス埼玉 神奈川日産 日産プリンス神奈川 岐阜日産 日産プリンス三重 愛知日産 日産プリンス名古屋 京都日産 兵庫日産 愛媛日産 日産福岡
 鹿児島日産 帯広日産 日産サテリオ弘前 秋田日産 日産プリンス秋田 福島日産 群馬日産 長野日産 松本日産 日産サテリオ埼玉 千葉日産 日産プリンス千葉
 日産自動車販売 静岡日産 日産プリンス静岡 浜松日産 和歌山日産 日産プリンス和歌山 香川日産 日産サテリオ佐賀 長崎日産 日産プリンス長崎
 青森日産 岩手日産 日産プリンス岩手 日産プリンス宮城 栃木日産 日産サテリオ新潟 甲斐日産 日産プリンス山梨 日産サテリオ千葉 日産サテリオ湖南 日産サテリオ富山 石川日産 三重日産
 日産プリンス兵庫 日産サテリオ岡山 日産プリンス広島 日産プリンス山口 日産プリンス大分 宮崎日産 日産サテリオ宮崎 KORO

～ レース結果 ～

予選結果；1位

Q1 名取鉄平 選手 TIME 1'35.726

Q2 J-P. デ・オリベイラ 選手 TIME 1'35.114

予選はQ1から、名取選手が公式練習のベストラップを1秒以上更新するタイムでQ2に進出しました。

Q2ではオリベイラ選手が見事ポールポジションを勝ち取りました。

決勝結果；1位

決勝はオリベイラ選手が序盤から逃げるレース展開となり、1位を維持したまま名取選手にバトンタッチしました。

ピット戦略で2位に下がりましたが、80周目で再び1位になり、そのまま見事1位でゴールしました。



近藤 真彦監督



Q. これから参加する学生に何を学んで、学校生活に活かしてほしいですか？

A. 日産メカニックチャレンジでは、現場の緊張感を肌で感じてほしいと思っています。メカニックが明るい雰囲気です。食事している時とヘッドフォンをつけている時の表情の違い、ドライバー同士が話しているときと、自分の世界に入った瞬間の雰囲気の違いに気付けると、また面白いと思います。オンとオフをはっきりとつける事の大切さが分かったら、これから仕事する上で役に立つと思います。



J-P. デ・オリベイラ選手

Q. オリベイラ選手は自転車レースでも優勝経験がありますが、自動車レースと共通していることはありますか？

A. 自転車と車のレースにはいくつか共通点があります。

私にとって自転車レースは、体力がとても大事となり、常にアクシデントと隣り合わせの競技です。

そのため自分の身を守る為にも、路面状況を見極める目のトレーニングを欠かさずしています。

こうした体作りや鍛えるべき点もスーパーGTで生きていますね。

名取 鉄平選手

Q. ドライバーと整備士は速さを求めることと、確実性を求めることは共通して大事にしていることだと思います。そのことについてドライバーという視点から学生へアドバイスはありますか？

A. レースは何が起こるか分かりません。どんな時でもミスしないように日々努力する事が大切だと思います。例えばドライバーはいいタイムを出すためにドライビングを勉強したり、メカニックはスプリントレースと違って給油やタイヤ交換があります。一人一人に役割があって、それを追求していれば結果は付いてくると信じて努力を怠らないことです。

～ 日産販売会社整備士インタビュー ～

岐阜日産自動車株式会社 廣瀬 凌太郎さん



Q. 今回日産メカニックチャレンジに参加して学んだことを、普段の整備でどのように活かしていきたいですか？

A. レーシングカーというのは、乗用車とは全然違うスピードであったり、使用されている素材が違うので、足回りのセッティングなどがシビアで管理が非常に細かいと感じました。

正直「そこまで確認しなくても」と思う作業も何回も確認していたので、普段の小さな作業でも当たり前を確認することを大切にしていきたいです。

松本日産自動車株式会社 山岸 篤史さん

普段の仕事で触る車と全く違う車を扱うことの意味に気付けるように集中しました。

初めは車にはあまり触ることはできないと思っていましたが、実際は次々と仕事が舞い込んできて、非常に有意義な時間でした。

質問する時間もあったので、車への知識が深まりました。

学生の皆さんには、教科書や実習に出てくる部品の構造や作動をしっかりと理解する事で車への理解がより深まると思うので、そこを意識して勉学に励んで頂ければと思います。



～ 学生インタビュー ～

日産京都自動車大学校 加納 愛奈さん

前回の岡山戦でテクニカルとして参加し、経験を活かせると思い立候補しました。過去にドライバーサポートの経験をした方からアドバイスを頂くことで、テクニカルでは見らなかったチーム全体を見ることができて、レースに関わる人と繋がりやすさを知りました。



日産京都自動車大学校 曾東 昂祐さん



ピットから車検場までマシンを押している光景が今でも目に焼き付いています。ピット内では、TS やメカニックに自動車についての様々な知識を教えて頂きました。フィニッシュの瞬間は色々な感情が溢れてきました。これは先輩達からの「頑張れよ」と声をかけてくれたことで、KONDO RACINGの一員であるという自覚が芽生えたからだと思っています。

日産愛知自動車大学校 近藤 孝祐さん

今回、2回目の統括をして、自身のコミュニケーション力や計画力のなさを改めて実感しました。慌ててしまう瞬間がたくさんあり、全体に迷惑をかけてしまいましたが、愛知校、京都校関係なく話し合い、全員の連携がうまくいったので、非常に助かりました。



～ 広報所感 ～

この富士戦で56号車は予選と決勝の両方で1位を勝ち取る「Pole To Win」を成し遂げました。前回の岡山戦での悔しさをぶつけに行くように、チーム全員の気持ちを肌で感じるそんなレースでした。

56号車の優勝が決まった瞬間、涙する学生がいました。それには自分たちのチームが優勝して嬉しいという気持ちも含まれていますが、それ以上に「この活動に対して本気になれた」ことが現れているように見えました。

この経験を胸に、これからの将来に向けて成長していきます！

この活動をサポートしてくださる全ての方々に、お礼申し上げます。
本当にありがとうございました。

広報担当：団、石塚、森岡、井上

